

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【新開小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	算数については知識・技能の定着が図れた内容は多かったが、学年により差異が見られた。国語については、言葉の特徴や使い方に関する事項について、どの学年も定着を図っていく必要がある。今後は、タブレットを活用した学習や習熟時間・学習相談機会の確保を継続するとともに、学習活動や体験活動と結び付けて知識・技能の定着が図れるようにする。また、児童一人ひとりの実態に合わせた個別最適な学びがさらに充実するよう、職員同士で授業を参観し合い、授業改善に取り組んでいく。
思考・判断・表現	学校課題研修テーマ「自ら問いをもち、自分の考えを基に、主体的・協働的に探究する新開っ子の育成～SDGs17の目標と関連付けて～」を目指し、各教科と総合・学校行事と関連付けた教科横断的な学びを進めることができた。来年度は3年間の研究のまとめとして、これまでの実践を継続・発展させ、主体的・協働的に探究する学習の充実を図り、研究発表の実施へと繋げていきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の定着に関して個人差が大きく、児童一人ひとりの課題に合わせた個別最適な学びが展開できていない。</p> <p><指導上の課題>児童が自分の学習状況を踏まえて反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分であり、自ら習得状況を確認する機会が不足している。</p>	<p>毎週学習タイムを設定し、児童一人ひとりの課題に合わせて学習に取り組む時間を確保したり、ICTを活用したドリル等を活用して、基礎的・基本的な計算等の反復・習熟に取り組んだりする。【15分を年間78回の実施】</p> <p>学力向上タイムを設定し、学習の振り返りを行う時間を確保して、学習内容の定着を図る。【15分を毎学期末に1～2回の実施】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>難易度の高い課題に対して、粘り強く取り組んだり、協働して解決を図ろうとしたりすることを諦めてしまう場面がある。</p> <p><指導上の課題>児童が主体的・協働的に探究する学習の充実を図ることが不十分である。</p>	<p>学習を進める中で自分事として課題を設定できるような展開の工夫をしたり、協働的な学びとなるよう、答えが1つではない課題について考えたり、表現したりする活動を取り入れた授業を展開する。【1・2学期に研究授業または公開授業を全教職員が実施し、管理職及び教職員相互の参観と振り返りを2回以上実施する。】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	毎週月曜と金曜に設定した学習タイム、毎学期末に設定した学力向上タイムにおいて、各教科のドリルやドリルパーク等を活用することで、基礎的・基本的な計算の反復・習熟、学習のまとめに取り組むことができた。また、児童の理解度を確認しながら授業進度を調整することで、学習内容の理解が進んだ児童が増えた。各学期に複数回、読み聞かせボランティアによる読み聞かせも実施でき、読書に親しむ時間を確保できた。
思考・判断・表現	A	毎学期ごとに全職員で研究授業の参観・研究協議会を実施することができ、そこで得た学びを自身の授業改善に生かすことができた。年度末には、これまで実践してきた教科横断的な学びや指導の工夫・改善について、各学年ごとに発表して共有し、児童一人ひとりの実態に合わせた授業のあり方について学びを深めることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は、「我が国の言語文化に関する事項」についてはよくできた。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」については課題が見られた。特に情報と情報との関係付けの仕方についての理解が不十分であった。語句と語句をつなげたり関係付けたりして、思考の流れを整理することができるようにしていく。算数は、特に「データの活用」の領域について学習の成果が見られ、グラフや表から項目間の関係や条件を読み取ることがよくできていた。しかし「数と計算」「図形」の領域については、計算技能の定着や図形の意味や性質の理解について課題が見られ、個人差も大きかった。
思考・判断・表現	国語は、「話すこと・聞くこと」に関する領域は昨年度同様概ねできていたが、「書くこと」「読むこと」に関する領域は課題が見られた。説明文や物語文を読み取る学習に加えて、読書ボランティアと連携した読み聞かせ活動の充実や、自分の考えを明確にして書く活動の充実を図ってほしい。算数は特に「変化と関係」の領域について学習の成果が見られ、二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができていた。しかし「数と計算」「図形」に関する領域においては課題が見られ、特に記述式の問題について顕著だった。必要な数字に着目し、言葉と式を用いて記述できるように支援を続けていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	同一集団経年比較の結果では、昨年度より小4～小6全ての学年で国語・算数ともに数値が向上し、学力の改善が結果に表れた。国語については学習内容の理解が進んだが、個人差が見られた。算数については概ねよくできた学年が多く、特に「変化と関係」や「データの活用」の領域について成果が見られた。その他の教科は内容や領域により一部課題が見られ、例えば理科の「エネルギー」を柱とする領域については理解が不十分であり、苦手意識をもつ児童も見られた。
思考・判断・表現	教科の領域や学年の児童の実態により、国語・算数ともに個人差が見られた。算数については、特に「図形」に関する領域で理解が不十分な児童が見られた。算数的活動のより一層の充実を図り、学習内容の定着を図りたい。国語については、「読むこと」に関する領域で、課題を抱えた児童の割合が多かった。学校図書館と連携した読書活動や読み聞かせの充実を継続するとともに、段落ごとに要点を整理したり、登場人物の行動や気持ちに着目して読み取らせる学習をより一層重視したい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習タイムを設定することで、ICT等も活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。また、学力向上タイムを活用することで、児童一人ひとりに合わせて習熟の時間を確保することができた。今後も継続して取り組み、個別最適な学びの充実を図っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	1学期に全職員で研究授業を参観・協議し、成果・課題の共有を図ることができた。また、児童の実態把握や指導の工夫・改善について、研修を実施することができた。今後はこれらの学びを基に、児童一人ひとりの実態に合わせた授業のあり方について更に研究を推進していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)